

「学習」と「学修」の違いについて説明する河瀬事務局長



アカデミックスキルⅠ  
基調講義



学生のグループワークを見守る  
久保田入試・広報課長

アカデミックスキル  
支援センター

レポート

## 「構え」づくりへ教職連携

1年次前期から2年次前期まで続く全学必修科目「アカデミックスキル（Ⅰ～Ⅲ）」では、毎年1年次の前後期に、「基調講義」を実施しています。これは、充実した大学生活を送るための「構え」を1年次生のうちにつくってもらおうと、教員や職員が連携し、それぞれの立場から講義を行うものです。

5月の第2～3週に実施したアカデミックスキルⅠの基調講義では、河瀬晴夫事務局長が「大学生の学修マインド」、久保田憲寿入試・広報課長が「伝える力」をテーマに、学科ごとに話をしました。

河瀬局長は、高校までの「学習」から「学修」へと学びのスタイルを転換させることの大切さを強調。「大学で問われるものは、一問一答的な答えではなく、課題を通しその奥に潜んでいるものを追求していく力」と話しました。また、本学の卒業認定・学位授与の方針（DP）を示しながら、

求められる学生像についても言及。チーム医療の一員としてどのように大学で成長していくのかと学生に問いかけ、自分自身への「宣言文」を作成させました。

一方、久保田課長は、就職活動時の履歴書・エントリーシート、面接、小論文・作文を取り上げ、書く・話すことによる「伝える力」の大切さを力説しました。実際に学生が書いた文章の添削例を示したり、結論先行型の話し方のポイントを紹介したりしたほか、学生たちにさまざまな課題を投げかけ、盛んなやり取りをする場面も。久保田課長は、伝える力を「目標達成のための手段」として、「日頃から伝える力を身につけてほしい」と熱く語っていました。

後期（アカデミックスキルⅡ）の基調講義では、木下統晴理事長、竹屋元裕学長、川口辰哉研究科長が登場する予定です。

（アカデミックスキル支援センター）

## さようなら“井本のおばちゃん”

### 21年間学内清掃 教職員から感謝の花束

長年にわたり本学の清掃業務に携わってきた井本ミヨ子さんが、4月末で所属する熊本市の清掃管理会社・三勢を退職。これに伴い、本学にも別れを告げました。

井本さんは平成15年の開学以来21年間、本学の清掃業務に従事。きさくな性格で、教職員や学生たちからは“井本のおばちゃん”の愛称で親しまれてきました。毎週月曜日の朝には、担当する1号館の各トイレに季節の花を飾り続けるなど、細やかな気配りが多くの人たちの心をなごませてきました。

ことし80歳となる井本さんへの感謝の気持ちを伝えようと、14日（火）には本学事務室で感謝の集いが開かれました。総務課の古川愛美さんから手渡された花束を抱え、井本さんは「20年の間本当にありがとうございました」と笑顔を見せていました。

（入試・広報課）



贈られた花束を胸に、竹屋学長ら教職員と記念撮影する井本さん（前列中央）

# 崎元前理事長が初の水彩画個展

## 力作42点 10月にも“第2弾”企画

崎元達郎・前理事長の水彩画作品を並べた初の個展が8日(水)～13日(月)、熊本市中央区のアートスペース大宝堂で開かれました。

大阪大学時代に美術部に所属していたという崎元前理事長は、熊本大学に赴任後、油絵から水彩画に転向し、以後、国内外の行く先々で印象に残った場所や自然を描き続けてきました。

「崎元達郎水彩画展[その1/2]」と銘打った初個展は、来年80歳の傘寿を迎えるのを機に企画。1990年頃から2012年ごろまでの約20年間に描いた、小品の静物画から30号の大作まで42点を並べました。この中には、2019年の第85回東光展の30号部門で入選した「ウイコンシンの春」も含まれています。また、いくつかの作品には、西川盛雄・熊本大学名誉教授から贈られた詩も添えられ、味わい深い展観となりました。

「公職を退き絵筆を握る機会が増えました」と崎元前理事長。「2/2」と題した第2弾の個展も10月9日(水)から14日(月)まで、同会場で予定しており、2012年以降の作品約40点を展示するという事です。(NL編集部)



初の水  
彩画  
個展  
を開  
いた  
崎元  
前理  
事長



今週  
の  
一  
枚

### 監視カメラからの眺めは？

2号館1階にあるコミュニティスペースでツバメの巣を見つけました。監視カメラの上ののっかって掛けられていて、中には4羽ほどのヒナたちが。数分おきに親ツバメが飛んできては、口移しで餌を与えています。もしも見かけたら、優しく見守ってあげてください。(撮影：向井良人准教授＝共通教育センター)

### 新任教員 私の研究 4

本年度、本学に赴任した教員の皆さんの研究内容を紹介します。



前田 ひとみ  
保健科学研究科・看護学科特任教授

自律的学びへ仕掛けづくり

対象者の個別性に合わせて根拠に基づいた医療を提供するためには、基礎的な知識・技術の習得だけでなく、これらを活用して課題を解決できる思考力、推論力、判断力が求められます。学習活動を効果的、効率的に行うために学習者がとるさまざまな方法を学習方略といいます。授業によって学習リソースや求められる能力が異なることから、科目によって学習者が使用する学習方略は異なります。医療者が学習サイクルを効果的に循環させ、生涯にわたり自律的・主体的に学び続けるための仕掛けづくりに取り組んでいます。

宮崎 宣丞  
リハビリテーション学科  
理学療法学専攻助教



「現場で客観的な数値を活用して理学療法を行う」ということを念頭に、ウェアラブルセンサーや超音波画像診断などを用いて、歩き方や筋の動きなどの数値化に取り組んできました。現場でも活用できる可能性のある機器を用いることで、各個人の特徴に応じた、より効果の高い理学療法の提供につながると考えております。動作解析の観点から、対象者の健康増進等に貢献できるように取り組みたいと思っております。

歩き方や筋の動き数値化

# 学友会新会長に内田さん（理学療法学 専攻3年）

## 2024年度総会 新執行部メンバー決まる

写真左は、学友会の新会長になった内田拓斗さん。同下は、総会で内田新会長に紹介される新執行部メンバーたち

2024年度の学友会総会が16日（木）、50周年記念館であり、新会長に内田拓斗さん（リハビリテーション学科理学療法学専攻3年）を選出しました。

773人（委任状690人含む）が出席。議長に外村蒼斗さん（同3年）を選んだ後、2023年度事業報告や決算報告、新年度事業計画案、予算案などが承認されました。役員改選では、先に行った会長選挙への立候補者がなかったことが報告され、会員推薦による内田さんの会長就任が決まりました。

内田さんは「コロナ禍で希薄になったタテのつながりを取り戻すため、学年を超えた交流ができる活動に力を入れたい」とあいさつ。引き続き、30人の新執行部メンバーが紹介されました。

2024年度、学友会では杏祭の開催のほか、月1回のJR西里駅清掃、七夕とクリスマスのシーズンイベント、地域の人たちと連携しての井芹川清掃などに取り組めます。

（NL編集部）

